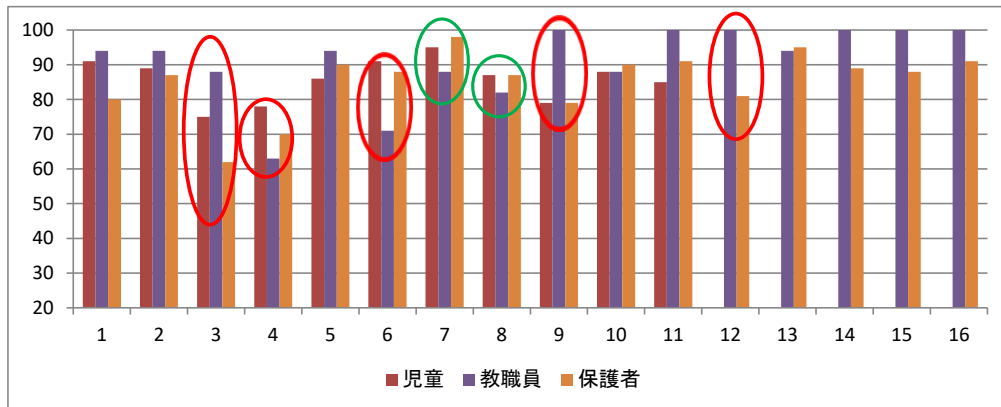


令和5年度 学校評価 考察

西諫早小学校

			児童		教職員		保護者	
			R4	R5	R4	R5	R4	R5
確かな学力	1	子どもは、授業が楽しく分かりやすいと言っている。	92	91	90	94	80	80
	2	子どもは、宿題をきちんとし、家庭学習に意欲的に取り組んでいる。	88	89	95	94	91	87
	3	子どもは、読書が好きで、よく本を読んでいる。	66	75	95	88	54	62
	4	子どもは、自分の考えを書いたり話したりすることを苦にしていない。	78	78	65	63	67	70
豊かな心	5	子どもは、毎日楽しく登校している。	86	86	95	94	91	90
	6	子どもに、あいさつや言葉づかいなど基本的な生活習慣が身についている。	89	91	76	71	92	88
	7	子どもは、友達に優しく接することができる。	96	95	90	88	96	98
健やかな体	8	子どもに、最後まで頑張ろうとするたくましい心と身体が育っている。	86	87	81	82	86	87
	9	学校は、体育や休み時間(外遊び)等に、子どもたちの体力・運動能力の改善に努めている。	83	79	90	100	87	79
	10	学校は、給食の時間をとおして食事のマナーや偏食等、食育指導に取り組んでいる。	91	88	90	88	87	90
夢・あこがれ	11	学校は、子どもに目標をもたせながら、いろいろな活動に組み込んでいる。	86	85	100	100	92	91
特別支援教育	12	学校は、個に応じた教育支援を大切にしている。			95	100	74	81
家庭・地域連携	13	学校は、学校便りや学級通信等で教育活動の様子を知らせている。			100	94	94	95
	14	学校は、学校支援会議や支援ボランティアを活用し、特色ある開かれた学校づくりに努めている。			100	100	91	89
	15	学校は、保護者からの相談等に気軽に応じている。			100	100	92	88
教育環境	16	学校は、登下校の安全や校内の安全に配慮している。			95	100	87	91

肯定率 86%以上:A 85~76%:B(黄) 76%未満:C(赤)



児童・保護者・教職員の各項目における肯定率

<検証>

◇肯定率86%以上:A 85~76%:B(黄) 75%以下:C(赤)と定義した。

1 16項目中、11項目で肯定率86%以上(A評価:保護者)となっており、特に「豊かな心」「家庭・地域連携」「教育環境」は全項目がA評価だったので、その点については本校の取組が功を奏し、家庭に理解されたと考える。

2 項目2「家庭学習への取組」については、児童・保護者・教職員の評価が高かった。これは、児童に家庭学習の習慣が身に付いていると考える。ただ、少数ではあるが取り組まない子もあり、家庭の協力も得にくいのが現状である。家庭での生活リズムの啓発を図りながら、家庭学習の重要性を本人に理解させていく必要がある。

3 項目3「読書活動」については、児童と保護者でC評価となった。理由としては、学校での読書活動は良好であるが、家庭ではゲームやテレビの時間が多いことが要因の1つとして考えられる。家庭読書等実施しているが、引き続き家庭への啓発を行う必要がある。また、児童の自己評価で「1」の評価をした児童が全体の約1割(29名)であった。児童の活字離れも考えられるため、個に応じた本の選書のアドバイスやリファレンス等を行っていく必要がある。

4 項目4「自分の考えを書いたり話したりすること」については、児童はB評価で、保護者と教職員はともにC評価となった。児童の性格的なものもあるが、本校の目指す児童像の一つ「主体的に学ぶ子ども」に直結する項目だけに、授業改善を軸とした研究推進、保護者への情報発信など、次年度に向け継続した対策が必要である。

5 項目6「基本的な生活習慣」においては、児童・保護者と教職員で評価が分かれた。客観的に見て、あいさつや言葉づかいはあまりよくないが、児童はできていると感じているところに課題がある。その必要性を実感させ、習慣化させていくために家庭・地域との連携を図っていく必要がある。また、令和4年度と比較して教職員、保護者ともに低くなってきている。

6 項目8「最後まで頑張ろうとするたくましい心と身体」については、教職員の評価が低かった。これは、担任として自己評価を厳しくしていることが考えられる。児童は学習や行事等、いろいろな教育活動を通して、最後まで頑張ろうとするたくましい心と身体が育ってきている。ただし、個人差があり、継続して取り組んだり、がまんしたりすることが苦手な児童もいる。特に教職員はできなかったことに目が行きがちとも考えられる。本校の目指す子ども像の一つ「ねばり強くたくましい子ども」に直結する項目だけに、いろいろな教育活動において児童の努力を認め励まし、達成感を味わわせていく。

7 項目12「個に応じた教育支援」については、教職員と保護者で評価が分かれた。特別支援教育については特に力を入れており、児童の特性を理解して必要な支援につなげている。教職員の意識も高い。ただ、保護者の方は特別支援教育についてよくわからない方も多く予想され、低い評価になったと考えられる。「低い評価」=「取り組んでいない」ではないので、児童には実感を、保護者には特別支援教育の情報発信(見える化)を行っていく必要がある。それでも令和4年度より高くなってきている。